

却りし方腰を搦卸く按摩しければ、傍家もまじく療治せん。
 勿く、練技小やるりの多。形件小功者なれども、かむむらくも
 矯材小して、武士の業小の不足あり。然し七旬小も然ひ有り
 ころ。某氏の平日廣く、大望小を聞きつるが。次は小それも
 修くむらやと嘯問は、及吉宗、別小宗ともいふは、河家（河原田）の
 如き大彦流小。是洗をせんと、思ふのと。謂小、指六顔色愛ド。
 勃然としく起揚王。及吉宗と睨と、若備は汝小腰おせし。
 それと恨とて、我小射し。尚突河と謂つるよ。舌は、舌き巻
 止と。と声を暴げ、言まども、及吉宗の動きもせ、老人の盛
 衰、獨後ありて、必夜、鉄城小をさるるも、翌日の七民の、蓆戸
 小。方と寄る、練のき小もあは、小。子が如き、下所小まき。

方と違ると、死未ら。紀馬小ひうきん、りのや有らん。と思ふが
 故小、下存と言せり。今の、使士の方おなれば、河家、宰儀の脚を
 捉とも。又ど、沖怨、そのふま、べき。強河、家小のけらる。言、案小も
 ひまド、終く、河思慮、あれうし。と空、嘯て居る。り。六指、六懸
 へ、羅、これども、甚不、使の、面色、わく、及吉宗、を帰し。及、使士
 伏、おこれと、所、及吉宗、小を、心く、教へる。案、河、殿、河、宰儀
 あり。急ひで、勅解、と言し、あげよ。然るく、其、方、の、為、る、と、と
 謂小、言、所、教、を、形、の、気、の、使、さ、河、勅、め、る、家、宰、使、率
 其、儀、小、言、早、の、あれ、と、我、も、渠、も、共、小、織、田、家、の、居、中、なり。
 自己、が、後、率、る、ぬ、者、小、腰、お、せ、し、の、礼、を、こ、り、腰、お、せ、し
 其、取、ち、あり。我、河、中、形、ち、あり。有、謂、河、小、の、礼、の、あり。